

よいや～の風について



——令和7年7月10日(金) No.7——校長 東原 宏章——

「想像力こそ」(全校朝会:校長の話より)

言われて、されて、嫌だと思う「言葉」や「こと」に手を挙げてほしい。

- ・「キモい、ばか、死ね」という言葉を言われる。
- ・机の上に消しゴムのカスを置かれる。
- ・消しゴムのカスを投げつけられる。
- ・そこに置いていたはずの物が、別の場所に置かれている。

ほとんどの人がすべてのこれらの「言葉」や「こと」をされたら嫌だと手を挙げた。

では、皆さんに問う。自分が言われて、されて嫌だと思う「言葉」や「こと」を誰かにしていいのか? いいはずがない。

相手の立場になって考えるということは、「もし、そのことを自分がされたらどうだろうか?」と想像すること。言われて嫌だと思う「言葉」を友達に浴びせてしまう人は、「もし、その言葉を自分が言われたらどうだろうか?」と想像する力が足りない人なのかもしれない。

されて嫌だと思う「こと」を友達にしてしまう人は、「もし、そのことを自分がされたらどうだろうか?」と想像する力が足りない人なのかもしれない。

私は、そして、ここにいらっしゃるすべての先生が、友達が言われて、されて、嫌だと思う「言葉」や「こと」を言うこと、することを絶対に許さない。なぜならば、言われた人、された人が深く、深く傷つくからだ。その人の家族が深く、深く悲しむからだ。

もう一度、皆さんに強く訴える。私は、そして、ここにいらっしゃるすべての先生が、友達が言われて、されて、嫌だと思う「言葉」や「こと」を言うこと、することを絶対に許さない。

今、ここで私が訴えても、体育館を出たすぐ後に、友達に対して、友達が言われて、されて、嫌だと思う「言葉」や「こと」を言ったり、したりする人がいるのならば、それは、大変、悲しいことだ。

その人は頭では、してはいけないことがわかっていても、「心」ではわかっていないということだろう。「心」でわかってほしい。「心」でわかることのできる人は、「心」が強い人だと思う。「心」の中のもう一人の自分の「言ってしまうなよ。」「やってしまうなよ。」というささやきに打ち勝つことができているからだ。

友達に対して、言われて、されて、嫌だと思う「言葉」や「こと」を言ってしまったたり、してしまったたりした人がよくする言い訳がある。それは、「意地悪をするつもりはなかった。ふざけただけだ。相手も笑っていたし。」という内容だ。これは、間違いなく「言い訳」だ。相手の心が傷つけば、「悪ふざけ」では済まされない。

私たち人間は楽しいときやうれしいときばかり、笑う生き物ではない。心が傷ついたり、命の危険を感じて助けをほしかったりするときにも、笑う生き物らしい。

だから、「相手が笑っていたから、」は言い訳だ。

もう一度、皆さんに訴える。

相手の立場になって考えるということは、「もし、そのことを自分がされたらどうだろうか?」と想像すること。友達に言葉をかけるとき、友達に何かをするときは、この想像力を働かせてほしい。

最後にもう一度、皆さんに訴える。

私は、そして、ここにいらっしゃるすべての先生が、友達に対して、言われて、されて、嫌だと思う「言葉」や「こと」を言うこと、することを絶対に許さない。あなたも、絶対に許さないという強い心をもってほしい。